

1泊。その木古内町では、地引き網漁やホタテの養殖作業、昆布干し作業など、普段経験のできない漁業を児童たちは体験しました。最終日には牧場での搾乳作業も体験したので、農・漁・畜産業という体験をすることができました。これを行く行くは、6年生になったときにその実感が沸くように、1年生から段階的な積み立てをして、自己負担も無く、県の補助金にも頼らずに収益だけで研修旅行ができるようにしたいですね。

## キーワード②「携わり」

### 【向陽幼稚園】

釈迦内小学校児童との園内の種植え

### 【第二中学校】

ひまわり油のお歳暮用の包装紙の作成

### 【鳳鳴高校写真部】

「ひまわり写真コンテスト」の審査

### 【周辺農家】

休耕田畑の提供やひまわりの栽培・収穫作業など

### 【婦人会】

国道沿い花壇のひまわりの栽培・収穫作業や種取りなど

### 【企業】

種の乾燥や搾油作業、製品加工や販売など



特に婦人会(会長 小田壽子<sup>ひさこ</sup>さん)の皆さんは、ほとんどの行程で携わるなど、プロジェクトにはたくさんの方や企業、周辺の人々が携わっているんですね(紹介できなかった皆さんごめんなさい)。

## こんな連携もありました

とある晴天の日。偶然通りかかったひまわり畑で、日景委員長と五十嵐副委員長が児童4人を連れて何やら作業中。

### 今日は何の作業ですか？

ひまわりの成長過程で、どうしても日陰にかかるものや他より生育の遅れるものがあります。種を採ることができないものなのですが、市内の生花店の協力で、それらを観賞用などで販売してもらえることになったんです！

## いやー無駄がない！



## キーワード③「未来」

五十嵐副委員長へのインタビューを行うたびに出てくる言葉が「将来的には」や「来年は」です。実施した行程を反省し「より良く」を常に考えているんですね。そこで、聞いた話と個人的な期待を基に、将来どのようなイメージのかを勝手に想像してみます！

### 【栽培】

休耕田畑の活用が進み、釈迦内地区の休耕地がすべてひまわり畑に！7月、8月はたくさんの方の観光客でにぎわいます。

### 【収穫】

残った茎や油のしぼりかすは、畑の土に混ぜて耕して翌年の肥料に。畑の養分が上がり、より大きい大輪を咲かせ収穫量が数倍に！

### 【種取り】

今は育苗箱(ダシ)のでこぼこを使つての手作業が、児童の発明した器械で作業効率UP！特許を取得し、新たな収益に。

### 【商品化・実用化】

ひまわり油の大量生産化で、手頃な価格で購入可能になり、某番組で「秋田県の家には必ずひまわり油がある」と紹介される(笑)。

また、「自分だけのひまわり油作り」として、体験型観光を実施。県外学校の体験研修も受け入れ、観光産業としても成功。



## 取材を終えて

「すべては未来を担う子どもたちのために」という理念を基に推進していることが、たくさんの方の協力者を得て、プロジェクトを頑張れる源になっているとすごく感じました。だから皆が笑顔で働くのだと。

子どもたちと地域の未来をひまわりに託す釈迦内SPは「太陽に向かうひまわりは、地域住民が明るい未来を自らの手によって造り出そうとする強い意志の象徴である」と、その想いをつづっています。これからも釈迦内地区では、ひまわりのような明るく元気な笑顔がたくさん見られるでしょうね！

来年は、釈迦内地区以外の人でもプロジェクトを体験できるツアーを企画すること。参加者には、ひまわり油の小瓶がプレゼントされるようなので、ぜひ参加してみたいかがでしょうか？



広報おおだてでは、この特集で紹介する、地域活性化に取り組む団体や事業などを募集しています。詳しくは、総務課広報広聴係までご連絡ください。☎43-7025